

アジア圏歌手によるビルボード誌1位は今も『上を向いて歩こう』1曲のみだ

昭和歌謡 誕生物語

第三曲目

文山川智

坂本九の代表曲といえば、
誰しも『上を向いて歩こう』と
答えるだろう。

あの時代を生きた日本人には、
どんな曲よりも親しみのある
名曲として胸の内に刻まれた。

みんなが知っていたし、
みんなが口ずさんだ歌だった。
曲の情感は日本人だけの
ものではなかった。

欧米でも歌われ続け、
ビルボード誌1位にまで躍り出た。
坂本九、御巣鷹山に散って29年、
歌に国境はないを真実とした

『上を向いて歩こう』は、
我々に誇りを与え、
永遠に歌い継がれていく。

故 坂本九さんが歌った
歴史的名曲が『SUKIYAKI』
となつて欧米でも大ヒットした『上を向いて歩こう』だ。

この曲が日本で発売されたのは1961年10月。当時は歌謡曲全盛時代だった。ジョージジロウさん率いるジャズカルテットのメンバー、中村八太さん書き下ろしのR&Bやブラックミュージックをベースにした、このモダンな曲調が若者たちの心を掴み、曲は爆発的なヒットを記録したのである。

ただ、坂本さんの歌い方をめぐって、作詞者の永六輔さんとの間にひと悶着あったという逸話も。というのも、この詞、実は永さんが60年安保闘争に敗北し帰途に就いた時の心情を綴つたものだった。ところが、プレスリーやバディ・ホリーなど洋楽アーティストから影響を受けた坂

本さんは、ウヘホムファイターとおしゃれに歌った。永さんになれば、鬨に敗れた自分たちを小馬鹿にしているのか、という気持ちもあったのだろう。坂本さんに対し「何だ、そのふざけた歌い方は！」と激怒し、「これじゃヒットしない！」と一喝したという。

だが、皮肉なことに、この曲は当時の歌謡界に旋風を巻き起こし、さらに英国ではジャズのトランペッター、ケニー・ボールドがインスト曲として発売、全英チャートで10位にランクイン。タイトルの『SUKIYAKI』は、レコード会社社長が日本で印象に残った食べ物の名前をそのままつけたのだという。

その後、米国で坂本さんが歌う原曲が発売されると、なんとビルボード誌では3週連続の1位を獲得。英語の歌が日本でヒットすることはあつても、日本語の歌が米国で

ヒットするなどありえない時代。まして1位になることは奇跡に等しかった。

『SUKIYAKI』はヨーロッパでも大ヒット。ただし、ベルギーやオランダでは「忘れ得ぬ芸者ベイビー」と意味不明なタイトルが付けられ、雑誌には「鋤焼(ル・すきやき)」が「鋤焼(ル・くわやき)」、「坂本九」が「坂木九」と誤植されるなど、当時の日本への認知度が伺えるエピソードが残つたものだ。

発売から53年目を迎える今も、ビルボード誌でのアジア圏歌手による1位は『上を向いて歩こう』(SUKIYAKI)1曲のみ。近年では東日本大震災の復興ソングとして、各地で口ずさまれている永遠の名曲である。

Yamakawa Chi

1962年東京生まれ。テレビ制作会社、週刊誌記者を経てフリーランスに。著書に『東方神起の派』(東方神起JYJ)を行く(共にイーストプレス)、『ヒューマンドキュメント 幸せのきずな』(リーブル出版)など。また、出版プロデュース作品として『生きる 義家弘介』(スターツ出版)、『デキる社員』(狂食ギヤル) (共にイーストプレス)など多数。